

フランス整形災害外科学会 (Société Française de Chirurgie Orthopédique et Traumatologique, SOFCOT) は 1918 年創立され, 2010 年には第 85 回を迎えた. この期に同学会は創立以来初の試みとして, 日本からの演題を募集してフォーラムを企画した. 1 年前にこの趣旨で開催可否の打診があった. 願ってもない機会なので, すぐ受諾の返事を送った. 因みに SOFCOT の今年のスローガンは « l'année du mouvement » 「運動の年」で, さらに « le mouvement et l'autonomie aux patients » 「運動と患者の自立」という副題が掲げられた. これに沿った演題が望ましいとの希望が添えられていた.

早速種々の広報手段を通じて国内に演題募集を呼びかけた. 果たして応募があるか, いささか不安であったが, 25 題もの応募があり, われわれを喜ばせた. 時間は最初から 2 時間のセッションが予定されていたので, 指定さ

れた時間に相応しい 8 題の出題依頼があったが、採用したい演題も多く結局口演 11 題、e-poster 5 題が日仏合同で審査し採用された。

（この欄を借りて、選に漏れた応募者にお詫びする次第である）

フォーラムの前日、SOF COT の世話で部屋を準備してもらい、演者が集まり打ち合わせを行った。この時はフランスらしく飲み物にブドー酒が用意される粋な計らいもあった。

SOF COT の期間中、パリの Palais des Congrès の会場でこのフォーラムは 2010 年 11 月 11 日の午前 8 時から 10 時までの 2 時間にわたって行われた。英語から仏語、仏語から英語の同時通訳のみならず、1 題については演者の希望で、日仏の同時通訳も用意された。なお、日本側の参加者は約 30 名であった（写真 1）。

先ず、フランス側の会長 Jacques CATON 教授（写真 2）と、日本側から筆者が挨拶の

のち口演が開始された（写真 1）。当日の口演演題の詳細は紙数の関係で省くが，整形外科，リハビリテーションのほとんどの領域に分布していた。すなわち，股関節 4 題，先天異常（下腿） 1，足 1，脊柱 1，膝 1，筋移植 1，身障者の独立 1，ロボットによる社会復帰 1 であった。これは偶然とはいえ，フランス側も評価した事実であった。

司会は Prof. Alain DURANDEAU（ボルドー大学），金子和夫（順大），大橋弘嗣（大阪府済生会中津病院）の 3 氏により，きわめてスムーズに且つ的確に進行した。

全演題に対して日仏両側より熱心な討論が行われたことも，このフォーラムを盛り上げた。しかも，討論者はフランス側からのもの圧倒的に多く，演題内容の斬新さ，レベルの高さを示していると思った。あとで CATON 会長は「très haute qualité」（非常に質が高い）と絶賛していた。

聴衆も満員になり，後ろでは立っている人

達がいる有様で，係員は嬉しい忙しさであった．残念ながら，筆者は **e-poster** については聴く機会がなかった．演者には誠に申し訳なく，ここでお詫びしたい．

最後に **CATON** 会長と筆者が総括し，2 時間を少し越すセッションは終了した．

この試みはこれからも是非持続したいと念願せざるを得ない．1987 年日仏整形外科学会 (**Société Franco-Japonaise d'Orthopédie, SOFJO**) をわれわれは設立し，毎年学術集会を開催してきた．それをさらに発展させて，1990 年には日仏整形外科合同会議 (**Association France-Japon d'Orthopédie, AFJO**) を隔年毎に日仏両国で開催地を選択して学術集会を行い発展して今日に至った．

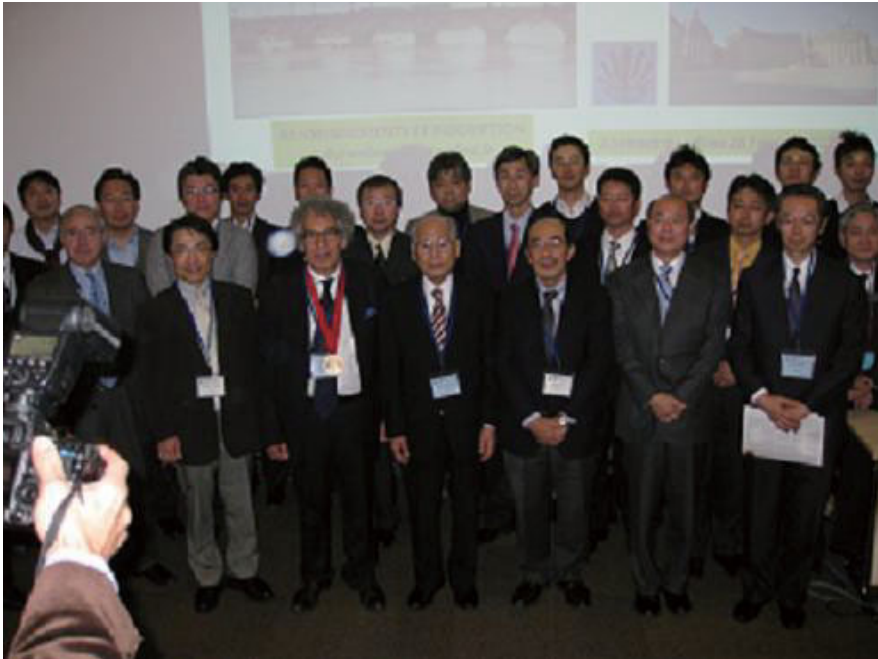
同じく 1990 年より両国間の交換留学生制度も発足させ，日本側から約 50 名の若い整形外科医がこれを利用し好評を得てきた．

これらの業績と行動が，**SOFCOT** の注目を浴びて，今回のフォーラムの開催に漕ぎ着け

たわけである．現に SOFCOT 側は，SOFJO, AFJO に関する記事を公式機関誌に掲載しているし，その抄録まで付けている．

近年はアングロサクソン系，韓国，中国関係の報道は，日本整形外科学会雑誌に広報されるが，ラテン系，とくに *Orthopédie* 発祥の地であるフランスとの交流に，日本側の関心が高まるのをわれわれは期待している．

最後に今回のフォーラム開催に際して終始連絡，整理に当たられ，ご自身も演題を提出された，大橋弘嗣事務局長に心からの謝意を表したい．



1 フランス側役員，司会者，日本側口演者一同



2 SOFCOT 会長 Prof. Jacques CATON (Lyon)